

第17章 年 表

1 主要年表

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
慶応3年	1867	・立花由松、阿部屋（あぶや）の鮭漁場の納屋守として、対雁に移住
明治4年	1871	・ 対雁村の設置 ・仙台涌谷領から農民21戸対雁に移住 ・豊平川（対雁）渡船の設置
5年	1872	・対雁で本道初の排水工事が行われる ・対雁街道（札幌偕楽園－雁来－対雁）の開通 ・石狩川、対雁－篠津の渡船官設
6年	1873	・対雁移住の涌谷移民、19戸が雁来に移住 ・榎本武揚、対雁に10万坪の土地を買い受ける
7年	1874	・ライマン、対雁を見分
8年	1875	・上州島村（現群馬県伊勢崎市境島村）の養蚕家田島弥平、対雁、篠津方面に桑樹調査
9年	1876	・樺太アイヌ、宗谷より対雁へ強制移住させられる ・対雁村井戸1か所完成（江別最初の井戸） ・篠津太に上州式100坪3階建養蚕室を建設、琴似、山鼻の屯田より養蚕の実習に通う
10年	1877	・対雁の樺太アイヌの授産施設“製網所”が設けられる、同所内に“移民教育所”（民設）（現対雁小）を開設 ・ジョン・バチュラー、札幌に対雁移民“デンベ”を招き、アイヌ語を習う、その折、対雁、当別を訪ねる
11年	1878	・対雁土人教育所（学務局の直轄）の開設 ・第1次江別屯田兵10戸入地 ・江別川（市街－三角地）渡船の官設 ・ 江別村の設置 ・黒田清隆開拓長官“対雁移民教育所”を訪ねる ・榎本武揚、ロシアからの帰途“対雁移民教育所”を訪ねる
12年	1879	・対雁駅通所の開設 ・対雁移民教育所、独立校舎を設け“対雁学校”と改称 ・コレラにより樺太アイヌ移住者罹患者74人中30人死亡
13年	1880	・篠津にロシア大工により丸太組屯田兵屋20戸を建設 ・江別、対雁両村戸長役場の設置（対雁村） ・対雁渡船場開設 ・江別屯田（十二戸）にエドウィン・ダン指導で土管暗渠施工（道内の先駆け）
14年	1881	・江別、対雁、篠津の3村共同墓地、対雁に設置 ・篠津村の設置 ・江別、対雁、篠津の3村戸町役場となる ・第1次篠津屯田兵19戸入地 ・伊藤博文、篠津の養蚕室視察
15年	1882	・「対雁移民保護法」の廃止 ・札幌－江別間に鉄道開通 ・江別駅の開業 ・山県有朋、西郷従道、篠津屯田を視察 ・養蚕室で寺子屋教育始める（旧篠津小） ・大倉汽船、江別－月形間に“樺戸丸”を就航させ物資の輸送にあたる
16年	1883	・幌向村の設置（札幌県告示、対雁戸長所掌） ・開成社、江別太に3戸入植 ・小松宮彰仁親王、松方正義、篠津屯田を視察
17年	1884	・第2次江別屯田兵75戸入地 ・石狩川に官用鉄船、神威丸、安心丸の就航
18年	1885	・第3次江別屯田兵43戸入地 ・第2次篠津屯田兵30戸入地 ・第1次野幌屯田兵138戸入地
19年	1886	・戸長役場を対雁から江別村に移す ・第4次江別屯田兵28戸入地 ・第2次野幌屯田兵87戸入地 ・北越殖民社、江別太石狩川畔に10戸（試墾移民）入植 ・第3次篠津屯田兵10戸入地 ・公立江別東学校（現江別小）、公立江別西学校（現江別第二小）の開校 ・対雁の樺太アイヌ、コレラ、天然痘で約300人死亡のため、ほかの者全て石狩に移転する
20年	1887	・江別登記所の開設 ・札幌警察署江別分署、石狩警察署篠津分署の設置 ・桂太郎、篠津屯田を視察 ・江別屯田兵村番外地の一部を区画割し、一般に貸付開始
21年	1888	・野幌兵村会設立 ・月形－篠津街道の開通
22年	1889	・公立篠津小学校（旧篠津小）の開校 ・篠津村戸長役場の廃止 ・石狩川汽船会社、空知丸・上川丸の就航（江別－月形） ・白石街道（厚別－大曲－4番通－8丁目－1番通）完成 ・野幌駅の開業 ・小野幌、豊幌に最初の移民あり
23年	1890	・北越殖民社集団入植115戸野幌に入る ・対雁、真願寺境内に樺太アイヌの供養碑建立 ・野幌兵村番外地の市街化が始まる
24年	1891	・江別太煉化石工場の開業（現東光町） ・野幌兵村で乳牛10頭（官の払い下げ）の搾乳販売 ・石狩警察署篠津分署の廃止 ・大麻に最初の移民あり
25年	1892	・私立江別町（市街地）尋常小学校の開校 ・天然痘がいちじるしく猛威をふるう
26年	1893	・江別郵便局で電信取扱 ・庁立泥炭試験場を対雁に設置（明治43年廃止） ・篠津兵村養蚕室の廃止
27年	1894	・武田重兵衛、市街地－一原間の渡船開始（重兵衛渡し）
28年	1895	・日清戦争のため野幌兵村174人に動員令が下り出兵 ・野幌原始林、禁伐採林に指定 ・八幡に最初の移民あり
29年	1896	・篠津村から“新篠津村”分村 ・野幌小学校の開校（明治24年より寺子屋式教育を開始）
30年	1897	・江別大火（市街地130戸のうち約100戸焼失） ・江別分署、警察署に昇格 ・憲兵屯所の設置 ・劇場“千歳座”の開業
31年	1898	・北海道炭礦鉄道、野幌煉瓦工場の創業 ・幌向太分教場（現豊幌小）の開設 ・第一原野に簡易教

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
		育所（旧江北小）の開所 ・石狩運漕汽船で千歳川航路を就航 ・公設江別消防組の創設 ・萩ヶ岡（水源涵養林）より市街地に竹樋で飲料水を供給 ・対雁川下（現中島）に最初の入植あり
32年	1899	・札幌区裁判所江別出張所の設置 ・江別尋常高等小学校の開校（江東小と江別町小の合併）
34年	1901	・麻畑簡易教育所（現大麻小）の開所（明治31年に寺子屋式で開始） ・公設野幌消防組の設立
		・幌向村の南6線以北を江別村に編入する
35年	1902	・補助航路“石狩川線”（江別－月形、江別－石狩）の就航開始 ・“煉化もち”野幌駅売りを開始
		・三原小学校（旧美原小）の開校～簡易小学校
37年	1904	・日露戦争のため野幌屯田兵村70人が出征 ・人力軌道“石狩川線”の敷設
38年	1905	・養蚕検査所の設置（元屯田兵村大隊本部内） ・志分別に簡易教育所を開所（大正5年野幌小に合併）
39年	1906	・二級町村制の施行（江別、篠津、対雁の3村合併し、江別村とする） ・初の村会開催
40年	1907	・富士製紙江別工場専用岐線の創設
41年	1908	・富士製紙江別工場（当時は北海道工場）の開業、石狩川の流送を開始（大正8年貨車輸送に切替）
42年	1909	・一級町村制の施行 ・村長に名越源五郎就任 ・江別－野幌間の鉄道複線化開通
43年	1910	・江別ヤツメウナギ組合の設立 ・対雁学校卒業生の山辺安之助、白瀬南極探検隊の一員として日本を出発
44年	1911	・皇太子、富士製紙江別工場を訪ねる ・町火災予防組合の設立
大正2年	1913	・小野幌の一部、白石村に編入 ・十二銀行江別町派出所（現北陸銀行江別支店）の開設
3年	1914	・江別市街地に電燈が点灯（634戸中210戸） ・野幌森林防火組合の設立 ・旧野幌中隊本部を8丁目沿に移設 ・野幌国有林の全域、禁猟区となる
4年	1915	・国費による篠津原野土地改良事業はじまる ・江別自転車大会開催、参加者2万人
5年	1916	・江別町となる（町制施行）、人口16,732人、戸数2,389戸 ・初代町長に名越源五郎就任
		・飛鳥山に“平地馬場”を造成、江別競馬の開催
6年	1917	・野幌兵村に畜牛組合の設立 ・江別産乳組合の創立
7年	1918	・小野幌の一部（大正2年移管の残余）白石村に編入 ・江別市場の開設
8年	1919	・対雁の榎本（武揚）農場、小作人8人に土地を譲渡する ・公立西角山小学校（現角山小）の開校
9年	1920	・石狩大橋の完成 ・第1回国勢調査の実施（人口18,992人）
10年	1921	・野幌原始林の一部（320.5ha）、特別天然記念物に指定
12年	1923	・石狩川対雁新水路の掘削開始（昭和8年完工）
13年	1924	・江別紋章制定（現市章）
15年	1926	・町営屠場の開設 ・篠津屯田兵村財産区の解散 ・野幌兵村の電化なる
昭和2年	1927	・江当軌道、江別－当別間の開業（8月） ・石狩川定期航路休航
3年	1928	・開村50年記念式の開催（6月） ・飛鳥山競馬場で江別競馬開催（6月） ・西野幌の“みずほの池”（水田野水池）の完成（8月） ・町村農場、石狩町から対雁（旧永山農場跡）に移転（9月）
4年	1929	・町立江別実科高等女学校の開校（昭和7年、町立北海道江別高等女学校に改称）（4月） ・江別第三尋常小学校（現江別第三小）の開校～江別尋常小より分離独立（10月）
5年	1930	・江別商工会の発足（4月） ・男子普通選挙制による初の町会議員選挙（議員定数24人）の執行（5月） ・石狩川渡船事故で十数人死亡（7月） ・夕張鉄道、栗山－野幌間の開業（11月）
6年	1931	・対雁に“樺太移住旧土人先祖之墓”慰霊碑を建立（8月） ・豊平川畔元江別の丘陵地で北海道式古墳群の発掘
7年	1932	・8月以来の長雨と集中豪雨で大水害発生（9月）
8年	1933	・江別高等女学校、庁立に移管（4月） ・富士製紙合併で、王子製紙となる（5月） ・石狩川対雁新水路の完成（8月） ・篠津小学校浦篠津分教場（旧八幡小）の開設（9月）
9年	1934	・江当軌道、札沼線の開通で営業を廃止（4月） ・江別競馬、町村農場西隣りの新馬場で開催（6月）
10年	1935	・石狩川汽船“上川丸”（江別－月形間就航）廃船（1月） ・江別町全地域の町名地番改正（4月）
		・江別大橋の完成（10月） ・大日本電力江別火力発電所の設立（12月）
11年	1936	・新夕張川に鉄橋が完成（3月） ・夕張川新水路の完成（8月） ・町が美原にヤツメウナギの乾燥場設置（8月） ・昭和天皇、野幌原始林に行幸（10月）
		・大日本電力江別火力発電所の専用線の敷設（6月） ・千歳村ママチの共同薪炭備林で製炭開始（8月）
12年	1937	・旧野幌中隊本部の移設（跡地に錦山神社を移す） ・国道27号（江別駅－江別橋間）で市内初の道路舗装工事を開始
13年	1938	・石狩川巴農場新水路の完成（6月） ・軍馬養成の方針により江別競馬、秋季開催を最後に廃止（9月）

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
14年	1939	・野幌公会堂の完成（12月）
15年	1940	・江別警防団の発足（消防組と防護団が統合）（4月） ・町農会が元江別に家畜診療所開設（7月） ・江別米穀配給組合の設立（3月） ・八幡小学校の開校（浦篠津分教場が独立）（4月） ・対雁に 工兵訓練所設置
16年	1941	・篠津郵便局の開設（3月） ・豊平川新水路の完成（7月） ・江別で初の本格的な防空壕築造
17年	1942	・防空のための監視唄の設置（仮施設）（5月） ・野幌機農学校の開校（6月） ・農地開発営団 ・角山地区に約1千町歩の開墾基本工事施工
18年	1943	・北陸銀行江別支店の開業（十二銀行江別支店他4行合併）（7月） ・機農部落、旧豊平川右岸に移 転、開墾を開始
19年	1944	・王子航空機江別製作所の設立（5月） ・江別町に「都市計画法」適用される（5月） <戦前>
20年	1945	・元江別に飛行場完成（4月） ・木製戦闘機キ-106試作1号機完成（5月） ・キ-106 <戦後> 初飛行に成功（6月） ・拓北農兵隊33世帯、東京世田谷から入植（7月） ・米戦闘機グラマンによ る江別空襲（死者4人）（7月） ・新野幌で戦後開拓（緊急開拓）始まる（9月）
21年	1946	・王子航空機江別製作所、GHQの賠償工場の指定を受ける（昭和23年、指定解除）（1月） ・江別 町連合青年会の発足（5月） ・江別火力発電所、GHQの賠償工場の指定を受ける（昭和27年、指 定解除）（8月）
22年	1947	・学制改革により江別第一、江別第二、江別第三中学校及び江別第一中美原分校（旧美原中）、江別 第二中野幌分校（現野幌中）、江別第三中篠津分校（旧篠津中）を開校（5月） ・初のメーデー実施 （5月） ・北海道拓殖銀行江別支店の開業（5月） ・対雁の旧軍隊兵舎4棟を改造し、引揚者住宅 とする（10月） ・北日本製紙産業の設立（12月）
23年	1948	・国立札幌病院付属江別診療所の開設（3月） ・野幌中学校の開校（江別第二中野幌分校が独立） （4月） ・江別高等女学校を江別高校に改編（4月） ・野幌機農高校の開校（4月） ・江別町農業 協同組合、野幌農業協同組合、江別農業協同組合の設立（4月） ・教護会の発足（のちの育成会） （4月） ・江別製粉の設立（5月） ・新野幌小学校の開校（7月） ・北越殖民社、解散を決議（7 月） ・角山開拓農業協同組合の設立（8月） ・開基70周年記念式典の開催（10月） ・美原豊栄開 拓入植の開始（11月） ・新野幌開拓農業協同組合の設立（11月） ・野幌高校の開校（道内唯一の季 節定時制農業高校）（12月） ・札幌保健所内で江別保健所の業務開始（12月）
24年	1949	・初の成人式の開催（1月） ・町火災予防条例の制定（3月） ・札幌公共職業安定所江別出張所が業 務開始（4月） ・江別太小学校の開校（4月） ・江別電報電話局の開設（6月） ・農業共済組合の設 立（6月） ・酪農学園大学部（2年制各種学校）の開校（7月） ・元江別の一部を緑町東1丁目～緑 町東4丁目、緑町西1丁目～緑町西3丁目、一番町北1丁目、一番町南1丁目に町名変更（8月） ・江別漁業協同組合の設立（8月） ・家畜人工受精所の開設（10月） ・下の月小学校の開校（11月）
25年	1950	・町役場野幌出張所の開設（2月） ・公民館条例の制定（4月） ・“町政だより”（広報）の創刊 （5月） ・江別商業協同組合の設立（5月） ・飛鳥山公園野球場オープン（6月） ・第1回町民体 育大会の開催（9月） ・第7回国勢調査の結果、人口3万人を超える（人口31,647人、5,670世帯） （10月） ・北海道立工業試験場工芸部窯業分室の開設（10月）
26年	1951	・保育所の開設（初の町立保育所“みどり”）（3月） ・町立病院の開院（国立からの移管、現市立 病院）（4月） ・大麻開拓農業協同組合の設立（5月） ・江別商工会議所の設立（9月） ・公営住 宅条例の制定（10月） ・札幌開発建設部江別事業所の開所 ・篠津総合開発“篠津運河”掘削ほか 事業開始
27年	1952	・初の失業対策事業実施（2月） ・国民健康保険事業の開始（4月） ・婦人団体連絡協議会の発足 （4月） ・石狩中央信用金庫の開業（5月） ・江別町警察署、国家警察に移管（6月） ・住民登録 法施行による第1回人口調査の実施（7月） ・第1回町民文化祭の開催（11月）
28年	1953	・江別地区保護司会の発足（3月） ・国道27号（札幌～岩見沢間）を国道12号に改称（4月） ・江 別大火～市街中心部焼失（217棟、1,305人被災）（5月） ・義宮殿下、町村牧場を見学（7月） ・江別郵便局新局舎江別駅前完成（9月） ・江別電報電話局新局舎、4条5丁目に完成（10月） ・巴農場に陸橋完成、陸の孤島解消（10月）
29年	1954	・江別土建協会の発足（1月） ・国道12号線江別橋永久橋に架替え（5月） ・幌向村との合併が見 送りとなる（5月） ・江別市となる（市制施行）、人口34,359人、6,117世帯（7月） ・初代市長 に古田島薫平就任（7月） ・市制施行記念式典の開催（8月） ・昭和天皇の巡幸（8月） ・旧豊 平川新水路（現厚別川下流部）の通水（9月） ・篠津地域総合開発事業、世界銀行の融資採択

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
30年	1955	・江別第三中学校八幡分校（旧八幡中）の開校（1月） ・母子会の発足（1月） ・札幌市との境界一部変更～上福移（角山豊石）を江別に編入、市域面積188,642 k m ² となる（4月） ・飛鳥山陸上競技場の完成（7月） ・野幌酪農協同組合の設立（9月） ・江別産業会館の完成（10月） ・大火災被災者のため元江別（現弥生町）に公営住宅建設（10月） ・国土地理院の改測により面積188,83 k m ² となる（10月）
31年	1956	・南美原土地改良区の設立（1月） ・篠津地域泥炭地開発事業の開始（2月） ・角山開拓地区の電化（3月） ・対雁の引揚者住宅等を市営住宅に改称（4月） ・上水道創設事業開始（5月） ・新野幌開拓部落で水道通水（5月） ・国鉄豊幌駅の開業（11月） ・浄水場通水し、一部へ給水開始（12月） ・乳牛経済検定組合連合の発足（12月）
32年	1957	・千古園を市公園に整備（4月） ・旧林業試験場跡に北海道林木育種場の開設（4月） ・野幌窯業振興会の設立（4月） ・野幌酪農協同組合の設立（5月） ・江別観光協会の発足（7月） ・元野幌の一部を野幌町に町名変更（7月） ・篠津中央土地改良区の設立（7月） ・元野幌の一部を野幌町に編入、福移の全部を角山に編入（8月） ・市水道に消火栓36基敷設（10月） ・上江別に母子寮完成（12月） ・公益質屋の開設（12月） ・NHK野幌ラジオ放送所の完成（12月）
33年	1958	・野幌屯田兵第二中隊本部、北海道指定有形文化財に指定（4月） ・酪農学園女子高校（現とわの森三愛高校）の開校（4月） ・北海道工業試験場野幌窯業分場の開設（工芸部窯業分室から昇格）（4月） ・野幌太神楽保存会の発足（4月） ・篠津総合開発、南美原地区への通水式（5月） ・公民館の完成（8月） ・美原拡張開拓の入植開始（9月） ・市立江別高等看護学院の開校（9月） ・都市公園条例の制定（10月） ・開基80周年、市制5周年記念式典の開催（11月）
34年	1959	・除雪事業の開始（1月） ・赤十字奉仕団の発足（2月） ・江別高校、校舎の大半を焼失（2月） ・篠津の一部を中島に町名変更（4月） ・第2代市長に松川清就任（5月） ・国鉄バス、江別駅前～対雁市営住宅間路線の初運行（5月） ・国道12号野幌8丁目交差点に市内初の自動信号機の設置（8月） ・自衛隊協力で角山、対雁地区と元江別を結ぶ5丁目通が旧豊平川を埋立て、連絡される（8月） ・市消防本部、消防署の設置（10月） ・防犯協会の発足（12月）
35年	1960	・江別第三中学校角山分校（旧角山中）の開校（1月） ・酪農学園大学（国内初の酪農専門大学）の開学（4月） ・石狩川観光遊覧船の就航（江別～石狩）江運丸（7月） ・小児マヒ猛威をふるう（7月） ・江別小に初の学校プール設置（8月） ・江別ガスの創立（8月） ・商工観光夏祭りに石狩川花火大会の実施（昭和56年の中止まで毎年実施）（8月） ・新火力発電所建設に伴い、坊主山遺跡の発掘調査実施（9月） ・江別高校新校舎、向ヶ丘に完成（10月） ・小森忍さん北海道文化賞受賞（11月） ・都市ガス供給開始（11月） ・農事有線放送開始（江別市、野幌両農協）
36年	1961	・江別市総合建設計画スタート（4月） ・国民年金制度スタート（4月） ・野幌窯業界、原土の共同採取開始（4月） ・元江別の一部を弥生町、一番町に町名変更（4月） ・一番町北1丁目、一番町南1丁目を一番町に編入、元江別の一部を弥生町に編入（5月） ・2番通の大麻と野幌間の沢地など改良され連絡される（6月） ・記録的な集中豪雨で、昭和7年以来の大水害（7月） ・中央通の舗装（220m）完成（10月） ・第1回市政功労者表彰（12月）
37年	1962	・交通安全都市の宣言（3月） ・町村敬貴さん藍受褒賞受章（6月） ・市水道事業、企業会計に移行（7月） ・道防災総合演習、石狩川で実施（8月） ・江別小で初の完全給食実施（9月） ・豊幌小で完全給食実施（小規模校では管内初）（10月） ・上水道野幌地区に給水（10月） ・しょう紅熟市内に広がる（10月） ・江別電報電話局新局舎完成、江別～札幌間がダイヤル即時通話可能となる（12月）
38年	1963	・道営大麻団地の開発決定（2月） ・江別屯田兵村財産区の解散（2月） ・北電新江別火力発電所1号機運転開始（2月） ・王子の一部を7条6丁目に編入（8月） ・産米出荷数量10万俵突破（10月） ・江別屯田兵村記念館の完成（中央公民館に併設）（10月） ・豊幌地区に簡易水道敷設（11月） ・元江別の一部を高砂町、向ヶ丘に町名変更、元野幌の一部を幸町、錦町に町名変更（12月） ・東野幌に炭鉱離職者住宅完成（12月）
39年	1964	・東野幌小学校の開校（1月） ・江別を含む道央地区、新産業都市に指定（4月） ・都市計画法に基づく用途地域指定実施（4月） ・角山、機農、豊幌地区で農業構造改善事業開始（6月） ・大麻団地の起工式（8月） ・八幡に市内初の排水機場設置（9月） ・上江別の一部を東野幌に、元野幌の一部を幸町に、元江別の一部を高砂町に編入（10月） ・市制10周年記念式典の開催（10月） ・北海鋼機の操業開始（10月） ・町村敬貴さんに初の名誉市民の称号が贈られる（10月） ・老人クラブ連合会の発足（11月） ・大麻団地への入居開始（第1期276戸）（12月） ・角山橋完成（12月） ・中央バス江別ターミナルの完成（12月）

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
40年	1965	・元野幌の一部を晴美町、南樹町に、大麻の一部を大麻西町、大麻扇町、大麻沢町、大麻宮町、大麻中町、大麻高町、大麻東町、大麻園町に町名変更（2月） ・篠津運河再堀通水（4月） ・消費生活モニター制度の発足（4月） ・第1回江別福祉大会の開催（7月） ・角山、野幌の両排水機場の完成（10月） ・佐川誠一さん（市立病院長）の市葬（10月） ・大麻団地で市内初の公共下水道使用開始（12月） ・北海道消防学校、札幌から新築移転（12月）
41年	1966	・広域商業診断の実施（1月） ・新野幌小学校の廃校（3月） ・北海道女子短期大学の開学（4月） ・文化協会の発足（4月） ・下水道7か年計画スタート（4月） ・更生保護婦人会の発足（5月） ・野幌兵村財産区の解散（7月） ・石狩川ゴルフ場オープン（8月） ・江別土地改良区の設立（8月） ・あかしや保育所の開設（10月） ・江北中学校の開校（美原、篠津、八幡の3中学校統合）（11月） ・国鉄大麻駅の開業（12月） ・市役所新庁舎、高砂町に新築移転（12月） ・第二公民館の開館（野幌公民館の前身）（12月） ・自治連絡協議会の発足（12月）
42年	1967	・道立図書館、札幌から移転開館（4月） ・市ホームヘルパー制度の開始（4月） ・市内校で初のスクールバス運行開始（江北中）（5月） ・市民相談所の開設（8月） ・全道ホルスタイン共進会の開催（9月） ・野幌郵便局新局舎の完成（10月） ・町村敬貴さん北海道文化賞受賞（11月） ・し尿処理場の完成（12月） ・土地区画整理条例の制定（12月）
43年	1968	・初の婦人交通指導員（緑のおばさん）の配置（4月） ・ 江別市旗の制定（5月） ・野幌原始林、道立自然公園に指定（5月） ・札幌商科大学の開学（現札幌学院大学）（5月） ・学校開放事業の開始（江別小体育館）（5月） ・江別開基90周年、市制15周年記念式典の開催（6月） ・江別消防署、救急業務開始（119番）（7月） ・町名の字名廃止（8月） ・市内で電車運行開始（国鉄函館本線小樽－滝川間電化完成）（8月） ・江別小前に市内初の歩道橋完成（8月） ・江北小学校の開校（8月） ・市立病院病棟新築工事竣工（9月） ・市役所大麻出張所の開設（9月） ・市消防本部庁舎、高砂町に新築移転（10月） ・新石狩大橋（918m）の完成（10月） ・江別開拓記念像“不死鳥”庁舎前に建立（11月） ・大麻団地人口1万人を超える（11月） ・野幌屯田兵村記念館の完成（11月） ・大麻中学校の開校（12月） ・札幌通産局、対雁地区を優良工業適地指定（12月） ・ 市民憲章の告示（12月）
44年	1969	・学校給食センター業務開始（1月） ・豪雪のため国道12号線江別大橋付近で車両約500台が立ち往生（2月） ・江別消費者協会の発足（4月） ・市民憲章推進協議会の発足（7月） ・町村敬貴さん（名誉市民）の市葬（8月） ・大麻東小学校の開校（11月） ・野津幌川9号橋の完成（11月） ・道立教育研究所、札幌から移転新築（12月） ・文化財保護条例の制定（12月）
45年	1970	・江別振興公社の設立（1月） ・江別太の一部を東光町に町名変更（4月） ・榎本武揚顕彰碑騎馬像建立（6月） ・市街化区域の決定（2,210ha）（7月） ・商工観光夏祭りの中央通会場で買物公園（歩行者天国）実施（8月） ・榎本公園の完成（9月） ・北日本製紙と王子製紙の合併、王子製紙江別工場（9月） ・千歳市所在の市有林を千歳市に売却（9月） ・第11回国勢調査の結果、人口63,762人、世帯数17,223世帯となって伸率が道内市部で全道一（10月） ・お茶の水排水機場完成（10月） ・中島橋の完成（10月） ・江別市、農業振興地域に指定される（10月） ・豊幌1号橋の完成（11月）
46年	1971	・石狩川“重兵衛渡し”渡船廃止（3月） ・第3代市長に山田利雄就任（5月） ・福祉センターの開設（5月） ・第2期市総合建設計画の策定（6月） ・江別市勤労青少年体育センター完成（7月） ・千古園、火薬庫、市指定文化財史跡に指定（8月） ・野幌駅前広場完成（9月） ・榎本公園に對雁百年碑建立（9月） ・八幡小、篠津小学校に統合（9月） ・ゴミ収集手数料無料化の実施（10月） ・ 市の花に“菊”、市の木に“ナナカマド”の制定（11月） ・大麻西小学校の開校（12月）
47年	1972	・東野幌青少年会館の開設（1月） ・青年センター温水プールオープン（1月） ・皇太子殿下、同妃殿下“あすをきずく青少年のつどい全国大会”（道女子短期大学）にご臨席のため行啓（2月） ・野幌高校に全日制普通科設置（3月） ・労働会館の開設（8月） ・道内初のゴミ粉碎処理場建設（11月）
48年	1973	・下水道終末処理場の完成（3月） ・黒田清隆揮毫の扁額“對鴈學校”“富貴在苦學勞力”、市指定有形文化財に指定（3月） ・野幌太々神楽、市指定無形民俗文化財に指定（3月） ・乳児（1歳未満）医療費無料化の開始（10月から3歳未満児まで拡大）（4月） ・土地開発公社の設立（5月） ・市民会館オープン（5月） ・西野幌の一部を文京台に町名変更（6月） ・北海道農業協同組合学校の開校（7月） ・若草乳児保育園の開設（9月）
49年	1974	・大麻公民館の開館（1月） ・石狩東部広域水道企業団の設立（3月） ・夕張鉄道、栗山－野幌間の旅客輸送廃止（4月） ・道江別保健所、錦町に移転（4月） ・公害防止条例制定（6月） ・第1回農業まつりの開催（7月） ・第1回市民まつり開催（8月） ・史跡“對雁駅通の松”伐採（10